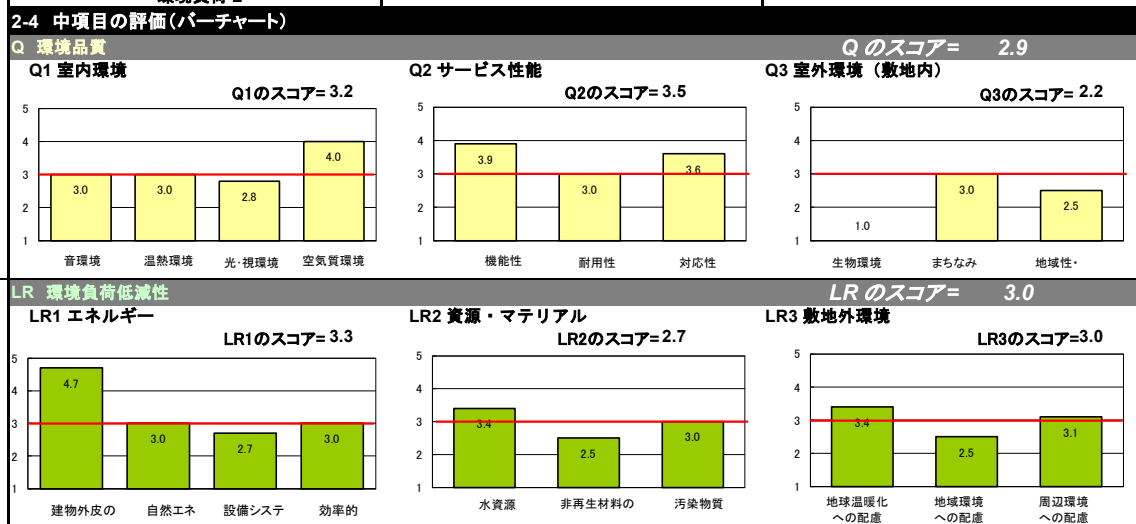
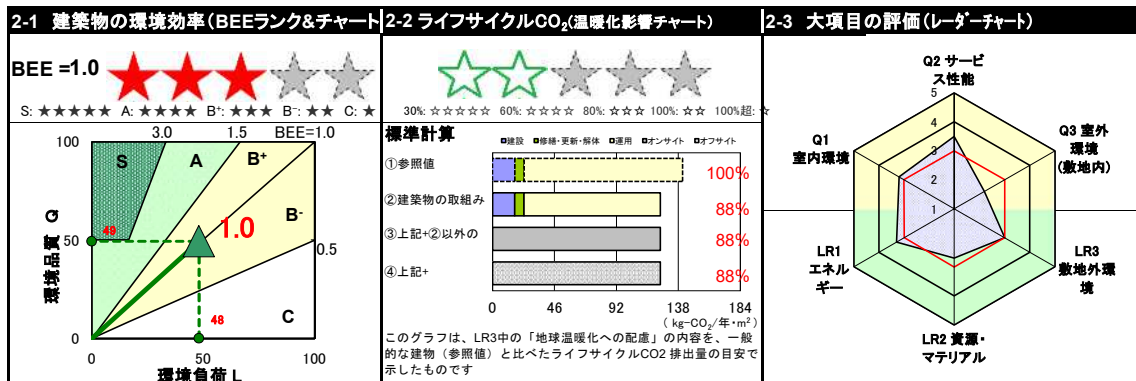


CASBEE[®] あいち

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き I使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

評価結果

1-1 建物概要	1-2 外観
建物名称 トヨタカラー名古屋株式会社 レクサスCPO半田	階数 地上2階
建設地	構造 S造
用途地域 準工業地域	平均居住人員 0 人
気候区分 6地域	年間使用時間 2,700 時間/年
建物用途 物販店、工場	評価の段階 実施設計段階評価
竣工時期 2025年8月 予定	評価の実施日 2024年3月19日
敷地面積 3,759 m ²	作成者 小原 健太郎
建築面積 2,106 m ²	確認日 2024年3月19日
延床面積 2,169 m ²	確認者 小原 健太郎



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.4	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		5.6 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
2.8	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
トヨタカローラ名古屋株式会社 レクサスCPO半田

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		独自基準		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質												2.9	
Q1 室内環境												3.2	
1 音環境							0.1	3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 室内騒音レベル							3.0	3.0	0.40		3.0	-	
1.2 遮音							0.4	3.0	0.40		-	-	
1 開口部遮音性能							-	3.0	0.81		3.0	-	
2 界壁遮音性能							-	3.0	0.19		3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	3.0	-		3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	3.0	-		3.0	-	
1.3 吸音							-	3.0	0.20		3.0	-	
2 温熱環境							0.3	3.0	0.35	-	-	-	3.0
2.1 室温制御							0.5	3.0	0.50	-	-	-	-
1 室温							3.0	3.0	0.44		3.0	-	
2 外皮性能							3.0	3.0	0.21		3.0	-	
3 ゾーン別制御性							3.0	3.0	0.35		-	-	-
2.2 湿度制御							3.0	3.0	0.20		3.0	-	-
2.3 空調方式							3.0	3.0	0.30		3.0	-	-
3 光・視環境							0.2	2.8	0.25	-	-	-	2.8
3.1 昼光利用							0.4	2.4	0.41	-	-	-	-
1 昼光率							3.0	1.0	0.28		3.0	-	-
2 方位別開口							-	-	-		3.0	-	-
3 昼光利用設備							3.0	3.0	0.72		3.0	-	-
3.2 グレア対策							0.1	3.0	0.14	-	-	-	-
1 昼光制御							5.0	3.0	1.00		3.0	-	-
3.3 照度						事務所は平均照度700lx以上確保	3.0	4.0	0.07		3.0	-	-
3.4 照明制御							3.0	3.0	0.38		3.0	-	-
4 空気質環境							0.2	4.0	0.25	-	-	-	4.0
4.1 発生源対策							0.5	5.0	0.50	-	-	-	-
1 化学汚染物質						建築基準法規制対象外となる建築材料を全面的に採用	3.0	5.0	1.00		3.0	-	-
4.2 換気							0.3	3.0	0.30	-	-	-	-
1 換気量							3.0	3.0	0.42		3.0	-	-
2 自然換気性能							3.0	3.0	0.16		3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮							3.0	3.0	0.42		3.0	-	-
4.3 運用管理							0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視							3.0	3.0	0.50		-	-	-
2 喫煙の制御						喫煙室を設け非喫煙者が煙に曝されないよう配慮	3.0	3.0	0.50		-	-	-
Q2 サービス性能							-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 機能性							0.4	3.9	0.40	-	-	-	3.9
1.1 機能性・使いやすさ							0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 広さ・収納性							3.0	3.0	0.16		3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応							3.0	3.0	0.16		3.0	-	-
3 バリアフリー計画				独自			3.0	3.0	0.69		-	-	-
1.2 心理性・快適性							0.3	5.0	0.30	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)						物販の天井高さ4.2m	3.0	5.0	0.33		3.0	-	-
2 リフレッシュスペース						レストスペースが売り場面積の4%以上	3.0	5.0	0.33		-	-	-
3 内装計画						空間全体に一体感のあるデザインとなるように計画	3.0	5.0	0.33		-	-	-
1.3 維持管理							0.3	4.0	0.30	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計						内装は維持管理のしやすい仕上、動線を計画	3.0	4.0	0.50		-	-	-
2 維持管理用機能の確保						建物の維持管理がしやすい計画	-	4.0	0.50		-	-	-
2 耐用性・信頼性							0.3	3.0	0.31	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振							0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)							3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能							3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数							0.3	3.0	0.33	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数							-	3.0	0.23	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				②			-	3.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							-	3.0	0.09	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							-	3.0	0.08	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							-	3.0	0.15	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔							-	3.0	0.23	-	-	-	-
2.4 信頼性							0.1	3.0	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備							3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備							3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備							3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				②			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備							3.0	3.0	0.20	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29				3.6	
3.1 空間のゆとり			②	0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	3.0		5.0	0.60		3.0	-			
2	空間の形状・自由さ	3.0		5.0	0.40		3.0	-			
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-		
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-		
1	空調配管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-		
2	給排水管の更新性	3.0		3.0	0.17	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0		3.0	0.11	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0		3.0	0.11	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0		3.0	0.22	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.35	-	-	-	2.2	
1 生物環境の保全と創出				独自③	-	1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮				独自④	-	3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				独自④	-	3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-		-	-	3.0	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.3	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.83	3.0	4.7	0.25	-	-	4.7	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.15	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.86	3.0	2.7	0.39	-	-	2.7	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価					-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-		
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	2.7	
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水					3.0	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.5	0.63	-	-	2.5	
2.1 材料使用量の削減				② 独自	-	3.0	0.07	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.21	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	1.0	0.21	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	3.0	0.25	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-		
1 消火剤					-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.0	
1 地球温暖化への配慮				①	-	3.4	0.33	-	-	3.4	
2 地域環境への配慮					0.3	2.5	0.33	-	-	2.5	
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減				独自	-	3.0	0.25	-	-		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制				独自	適切な駐車場の設置			4.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-		
1 騒音				独自	-	3.0	1.00	-	-		
2 振動				独自	-	-	-	-	-		
3 悪臭					-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-		
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-		
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	4.0	0.70	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタローラ名古屋株式会社 レクサスCPO半田

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.10	外構緑化:5.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 トヨタカローラ名古屋株式会社 レクサスCPO半田

計画上の配慮事項	
総合	周辺環境に配慮した外観デザインとした。
Q1 室内環境	快適に業務が行える環境づくり、仕上材、空調、照度とした。
Q2 サービス性能	余裕ある空間づくりとした。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地帯や庇の設置により敷地内利用者の暑熱環境に配慮している。
LR1 エネルギー	ODPが0の冷媒を使用
LR2 資源・マテリアル	床材に耐久性の高いタイルを使用することで、床材の塗り替え等の環境負荷を低減
LR3 敷地外環境	適正な照度設定を行い、敷地周辺への光害対策に配慮している
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。